

中期目標の達成状況報告書

平成 20 年 6 月

岡山大学

目 次

I	法人の特徴	1
II	中期目標ごとの自己評価	3
1	教育に関する目標	3
	（中項目1）教育の成果に関する目標	3
	（中項目2）教育内容等に関する目標	3 5
	（中項目3）教育の実施体制等に関する目標	7 7
	（中項目4）学生への支援に関する目標	1 1 2
2	研究に関する目標	1 3 3
	（中項目1）研究水準及び研究の成果等に関する目標	1 3 3
	（中項目2）研究実施体制等の整備に関する目標	1 5 3
3	社会との連携，国際交流等に関する目標	1 8 8
	（中項目1）社会との連携，国際交流等に関する目標	1 8 8

注：本文中の計画番号の後ろの●数字は，本学の中期計画通し番号

I 法人の特徴

1 学部等の構成

学部：文学部，教育学部，法学部，経済学部，理学部，医学部，歯学部，薬学部，工学部，環境理工学部，農学部

研究科：《修士》教育学研究科，医歯薬学総合研究科，《博士前期・後期》社会文化科学研究科，自然科学研究科，保健学研究科，環境学研究科，医歯薬学総合研究科，《博士》医歯薬学総合研究科，《専門職》法務研究科，教育学研究科（教職実践専攻）

専攻科：特別支援教育特別専攻科， 別科：養護教諭特別別科

附置研究所：資源生物科学研究所， 全国共同利用施設：地球物質科学研究センター

附属病院：医学部・歯学部附属病院

2 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数：学部 10,749人，大学院 3,430人，専攻科 16人，別科 38人

教員数：1,322人

3 歴史的背景と沿革

本学は，昭和24年5月に官立旧制岡山医科大学，官立旧制第六高等学校，岡山師範学校，岡山農業専門学校等を母体として，5学部を擁する新制の総合大学として設立した。発足当時の教育，法文，理，医，農学部に加えて，同35年には工学部の新設，同51年には医学部からの薬学部の分離，同54年歯学部設置，同55年には法文学部から文，法，経済学部への分離改組，平成6年には環境理工学部の設置を経て，現在11学部を擁する総合大学として発展を遂げている。この間昭和39年に教養部を設置し平成6年に廃止した。大学院は昭和30年の医学研究科（博士課程）の設置にはじまり，平成16年の法務研究科の設置，同17年の環境学研究科及び保健学研究科設置と医歯薬学総合研究科への再編と自然科学研究科改組，同18年の社会文化科学研究科改組，同20年の教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）設置により現在の7研究科に至っている。

4 特記すべき教育と研究の現況

本学は11学部7研究科を擁する我が国有数の総合大学である。新幹線「のぞみ」の停車する岡山駅から至近（北と南に約3キロずつ）の2大キャンパスを有する。緑あふれる広々とした津島キャンパスには，9学部と5研究科と大学本部がある。鹿田キャンパスには，附属病院と医療系2学部と2研究科がある。学士課程の教育では，学生の主体性重視の教育を，対話と信頼と厳正な評価を通じて推進し，豊かな教養と深い専門的学識を養い，総合的的確な判断力と課題探求能力の涵養を目指している。これらの取組は，特色ある大学教育支援プログラム3件，現代的教育ニーズ取組支援プログラム採択3件他に結実している。

大学院は，社会文化科学，自然科学，環境学，生命（医歯薬）科学というテーマごとに，複数学部にまたがり専門分野の関連する教員がグループ化して教育研究を行う学際的な総合大学院制を基に構成しており，21世紀COEプログラム2件，科学技術振興調整費2件，「魅力ある大学院教育」イニシアティブ2件，大学院教育改革支援プログラム2件他の採択に結実している。

上記2大キャンパスの他，鳥取県東伯郡三朝町に地球物質科学研究センター（全国共同利用施設），倉敷市に資源生物科学研究所（附置研究所）を設置している。

5 理念と改革の方向性

本学は，平成12年に「21世紀の岡山大学構想」を制定し，その総合的学術目標として「自然と人間の共生」を掲げ，人類社会への貢献の基本的指針としてきた。同16年の国立大学法人化に際し，これをより高度総合化し「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」に発展させ，現在に至っている。

本学は，課題探求能力の育成やファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進による学部教育の再構築と，大学院に重点を置く大学への移行の実現を通じて，国際標準の教育システムの構築を目指している。平成15年には教育開発センターを設置し，教養教育から大学院教育に至る教育の企画立案とFDを強力に推進している。さらに法人化に伴い，教育・学生担当理事が統括する教育・学生支援機構の下に，前出の教育開発センターを始めアドミッションセンター，外国語教育センタ

一、学生支援センター、スポーツ教育センター及び国際センター等を有機的に組織し、入試、学士教育、大学院教育、学生支援、国際交流及び社会連携を包括する体制を整えている。

教育に関する今期中期目標では、主体的に知の創成に参画し得る能力を涵養するとともに、豊かな人間性の醸成を支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍しうる高い総合的能力と人格を備えた人材を育成することを目指している。研究に関する今期中期目標では、あらゆる活動の源泉は先進的かつ高度研究の推進にあるため、常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向している。そのため研究・学術担当理事が統括する研究推進・産学官連携機構が中核となっている。

以上のように、本学は、大学院に重点を置く、我が国有数の総合大学として、「知の府」が果たすべき、人類社会の発展の基礎となる「高度な知の創成と的確な知の継承」という理念を掲げ、中国四国地域の『学都』として、個性輝く魅力ある大学として発展していくよう努力している。